

## ■効果の見える治水事業

### みやごうち 宮川内ダム施設改良事業

徳島県土木整備部 河川局 流域振興課長 たかた ひろし 高田 浩



宮川内谷川は、徳島県阿波市の阿讃県境に源を発し、旧吉野川に注ぐ河川延長19km、流域面積75.7km<sup>2</sup>の河川です。川幅が下流部ほど狭いことから、古くから下流部では水害による甚大な被害を受け、治水が早くから要望されていました。一方、河川水は山地を離れると伏流水となることから、しばしば干ばつにも見まわれ、用水の不足も訴えられていました。これらを解決する施策として、宮川内ダムの建設が昭和35年に始まり昭和39年に完成しました。また、洪水調節機能及び貯水池運用上の課題を踏まえ、安全で確実なダム管理を行うことを目指し、平成7年度から施設改良事業を開始し、平成15年度に完了しました。

#### 宮川内ダムの概要

- ①目的 洪水調節、かんがい
- ②河川名 吉野川水系宮川内谷川
- ③諸元 重力式コンクリートダム  
堤高:36.0m 堤頂長:136.0m  
総貯水量:1,350千m<sup>3</sup>  
集水面積:23.14km<sup>2</sup>



宮川内ダム

#### 施設改良の必要性・効果

宮川内ダムにおいては、放流能力の増大を図るため底部放流設備を設置すると共に、洪水吐きゲートの改良工事などを実施しました。事業の完了後、ゲートの異常動作もなく、ダム管理の信頼性が向上しました。

##### ・底部放流設備

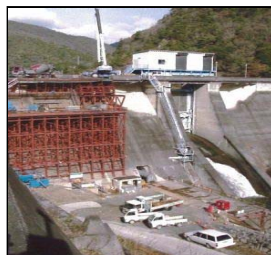
利水バルブの放流能力が小さく、これを超える流入があった場合にクレストゲートによる放流が必要となるが、このことによる放流回数が増加していると、微少開度の放流では振動等による洪水吐きゲートへの影響が懸念されていたため底部放流設備を新設しました。また、常に表面に近い水を下流に流し、動植物や稲作に低温被害が及ばないように選択取水設備を設けました。

##### ・洪水吐きゲートの改良

設計開閉荷重の過小評価、及びこのことに伴うモーター容量の不足により、洪水吐きゲートに影響があるため、ゲート構造の一部改良とモーター容量の増大を目的とした開閉装置の改良工事を実施しました。

##### ・ダムコン更新

老朽化が著しいとともに、交換部品等の手配が難しく、安全・安心のダム管理を行うため、ダムコンの更新を行いました。



底部放流設備設置工事



底部放流設備(堤体削削)

## 「あすに向かって人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」

阿波市長 のぎま くにかつ 野崎 國勝



阿波市は、平成17年4月1日、板野郡の吉野町と土成町、阿波郡の市場町と阿波町の4つの町が合併して誕生しました。徳島県中央北部の吉野川北岸に位置し、四国三郎と呼ばれる大河「吉野川」の北岸に広がる市です。面積は190.97km<sup>2</sup>、人口約41,400人であり、徳島県内の市町村では面積は8番目、人口は6番目の規模になります。

東は上板町、西は美馬市、南は吉野川市、北は香川県に隣接し、現在では、徳島自動車の開通により、土成インターチェンジや阿波パーキングエリアが整備されています。

北部の香川県境には阿讃山地が連なり、緑豊かな山々を有し、これらの山々を水源として、宮川内谷川、日開谷川、大久保谷川及び伊沢谷川が南に縦貫し、それぞれに南面傾斜の扇状地を形成しています。

阿波市の宮川内谷川には、徳島県で管理を行っている宮川内ダムがあり、治水、灌漑を目的として昭和39年にできた人造湖です。

宮川内ダムはダム公園として、春には新緑、秋には紅葉、四季折々に周辺の山々の姿を湖面に写し出し、美しい風景を生み出しています。

湖ではワカサギ、コイ、フナ、ブラックバスなど色んな釣りが楽しめるほか、湖畔には遊歩道やキャンプ場も整備されており若者の人気を集めています。

本市にはぶどう狩りやイチゴ狩りなどの観光農園があり、特産品は、吉野レタス、桃太郎トマト、ボンダリンなど、新鮮で高い評価を受けています。

また、国の天然記念物である「阿波の土柱」は自然の雄大さを満喫でき、とりわけライトアップで浮かぶ霧雨の土柱は幻想的でロマンチックです。そして、七番から十番までの「四国霊場札所」は、人々を癒してくれます。周辺を山に囲まれた、自然豊かな立地条件にある「金清自然公園」、吉野川を横断する「柿原堰」の下流では、解禁日もなると鮎釣りの釣り人が多く訪れます。

ぜひ皆様には、本市をご訪問いただき、四季折々の阿波市を楽しんでいただきたいと思います。



阿波市全景



宮川内ダム